

1 調査・研究の目的

歴史的建造物の保全・活用を図り個性あるまちづくりに活かしていくためには、住民(建物所有者)、行政(文化財・景観・建築の各担当部署)、専門家(建築士)が目的を共有し、それぞれの役割を相互に理解し、連携して取り組むことができるかが重要である。平成 20 年度から静岡県建築士会が人材育成として「地域文化財専門家」の育成を進めている。この専門家の資質の維持向上を図りながら、建築士会が要となり窓口となって、住民及び行政とのネットワークを構築していくことを目的とする。

2 調査・研究の内容

・ネットワーク構築の基本的考え方

住民、行政、専門家によるネットワークを構築するために、専門家としての建築士がその要となる。建築士は、地域に住み、地域を知り、地域をつくる専門家であり、地域において仕事をしているから地域を離れることはできないし、地域から逃げることもできない。地域に密着して生活を継続し、地域をよく知っている建築士が地域の歴史的建造物の保全・活用に生かされるべきなのである。この基本的考え方に基づいて、住民、行政、専門家それぞれの役割と連携を深めていくこととする。

・建築士の資質向上と建築士同士のネットワーク

【世話人会】地域文化財専門家は、23 年度までに 121 名が修了生となった。修了生の中から自ら“世話人”として手を挙げて、専門家同士のネットワークの一翼を担う。世話人は地域文化財に関する情報の受発信を自らが行き、専門家研修の運営に参画し、ステップアップ研修を企画・運営していくことが求められる。

【ステップアップ研修】世話人の企画により、修了生の技術・能力のスキルアップを目的としたステップアップ研修を実施(H24.2.4)。具体的な事例について、数名のチームごとに修復の方針と活用方法を検討してプレゼンテーションを行う。5つのチームに分かれ、2つの課題に対してチームで議論し結論を出すものである。文化的価値、歴史的価値、建築的価値を損なうことなく、どのような修復や耐震補強が可能か、より実践的な演習になった。

【歴史的建造物データベース】地域文化財専門家・研修において、研修生が発見してきた 613 件の調査票を、いつでも検索し取り出して活用するため、市町村ごとに分けてデータ化した。

・住民(建物所有者)との関係

【出前相談】文化財建造物の存続・保全に対して重要なことは、所有者の意識であり意向である。所有者が建築の価値に気づかずに壊されていくことも多い。所有者の意識を喚起することが専門家としての役割でもある。文化的価値ある歴史的建造物が存在する 2 地区について、その所有者に出前相談を実施し、文化財建造物の存続・保全にとってどのような課題や困難な状況があるかを明らかにした。

・行政との連携

【歴史的建造物の保全活用協議会】静岡県建築士会は、平成 21 年度から歴史的建造物の保全活用方策について、行政関係者を交えて協議を重ねてきた。この中で住民・行政・専門家の連携を取ることのできる駆け込み寺的な相談窓口の設置が望まれてきた。そこで、ネットワークの構築について検討するために「歴史的建造物の保全活用協議会」を設置し、相談窓口の役割、在り方等について協議を重ねた(H23.10.25、H23.12.15、H24.2.10)。

【県教委の文化財建造物監理士】県教委は、文化財の耐震診断を簡便に行うことのできる予備基礎診断を修得し、文化財保護にかかわる「文化財建造物監理士」を養成する制度を創設した。監理士は地域文化財専門家に耐震診断能力を付加するもので、監理士の約 9 割が専門家で占めていることから、県教委との連携をより密にしていきたい。

・静岡県ヘリテージセンターSHEC の設置

【SHEC の構成】

SHEC は「地域文化財専門家」により構成する。地域文化財専門家の中から世話人を募り、その中から東・中・西部にリーダーを置く。世話人は静岡県建築士会の会員とする。非会員の地域文化財専門家は、SHEC の活動に参加・協力する。SHEC にセンター長を置き、SHEC の活動を統括する。センター長は静岡県建築士会会長が任命する。

【SHEC の任務】

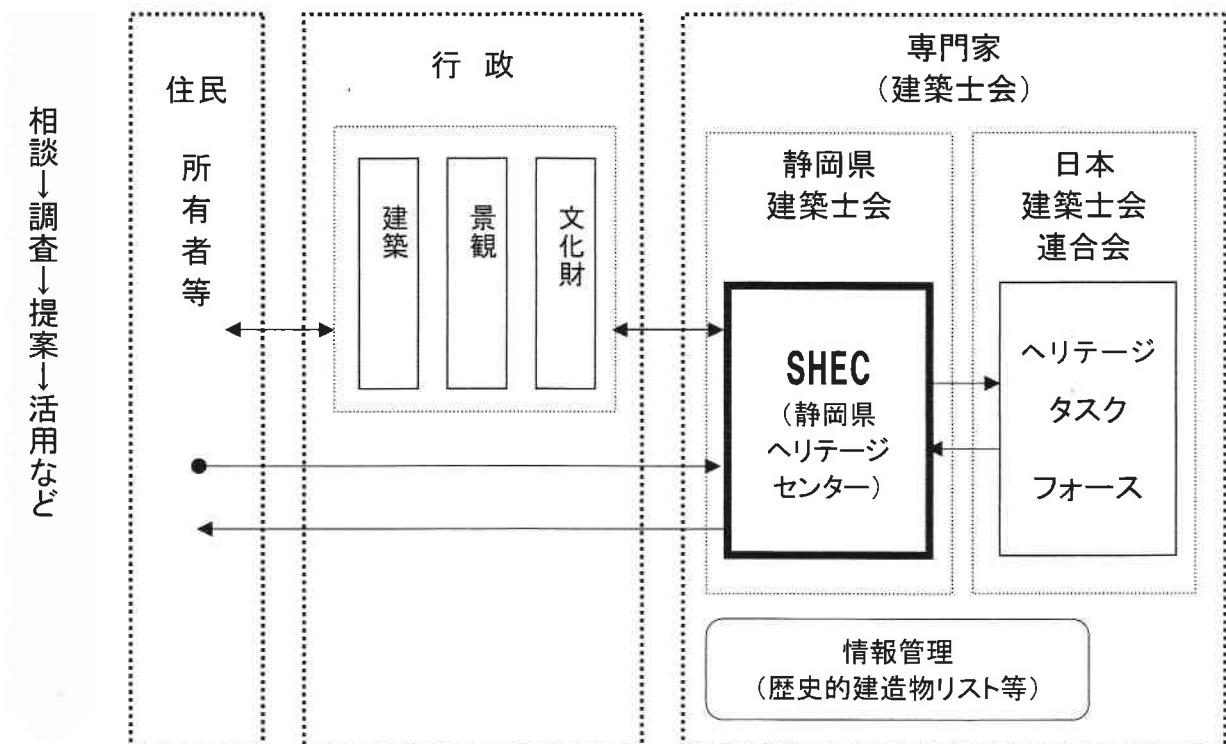
歴史的建造物（文化財建造物）の保全・活用のための相談・調査。歴史的建造物（文化財建造物）の保全・活用のための行政との連絡・調整及び連携。地域文化財専門家・育成研修の運営。地域文化財専門家の資質向上のためのステップアップ研修の企画・運営・実施。

【SHEC の活動】

SHEC は静岡県建築士会の東部・中部・西部のブロック内にそれぞれ窓口を設置する。平日は事務員が常駐し、電話・メール、窓口で対応する。電話・メールの場合、ブロックの世話人に連絡し対応する。窓口への直接相談は、内容を把握し世話人に連絡する。住民（所有者等）からの相談等により現地調査等が必要な場合、プロジェクトごとにリーダーを決め、チーム編成して対応する。行政との連絡・調整が必要な場合、世話人が速やかに行政と連絡・協議する。

静岡県ヘリテージセンターSHEC の全体像

(住民・行政・専門家のネットワーク)



3 今後の課題と展開

静岡県ヘリテージセンターSHEC は、立ち上げ段階であり、具体的な活動実績の積み上げ、PR 方法も今後検討していく必要がある。また、全体像の中で位置付けられている全国的な支援・助言組織の在り方も、具体的に位置付ける必要がある。

歴史的建造物の保全・活用する取り組みは、建築士の専門性を不可欠としており、その資質を最大限に発揮できる活動であることが改めて確認できた。

この活動は、建築士の活動分野を広げ、業務として能力を発揮できること、つまり仕事の領域を広げていくことにつなげていくことができる。そのためにも、建築士の活動に対して、広く市民の理解を得られる活動を継続していきたいと考えている。